

第3回 高1英語

総 評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の展開を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認して、今後重点的に学習していくべき内容を押さえておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

会話文、説明文ともに、分量の多い英文だったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。放送前に設問にざっくりとでも目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

読み上げのスピードが実際の日常会話並みだったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあるため、放送前に設問を確認したかどうかで差がついたと思われる。フレッドとスーザンの近況や、スーザンからのアドバイス、会話が繰り返り広げられている場所など様々な情報について正確に把握する必要があった。

(2) One is reading books. You should read widely and *deeply*. につられて *deep thinking* を含む a を選んだ誤答が大半を占めた。聞こえてくるキーワードが含まれる選択肢を選ぶのではなく、その選択肢の内容が正しいかという観点で選択肢を吟味すること。また、発言内容が少し後で訂正や補足をされていないかにも注意して聴くとよい。

問題B

中高生を対象とした市立美術館のイベントに関する説明文。

Part 1

(1) こちらも放送された 400 という数字をそのまま選んだ誤答が多かった。選択肢に数字があるからといって、聞こえた数字をそのまま解答する設問とは限らない。設問文に事前に目を通しておくとともに、後で落ち着いて計算し直せるよう、必要な情報をメモしておこう。

(3) 放送内容にある because of some school event の直後の but に注意。that was *not* the reason とすぐに訂正されていたので、b は不正解。

Part 2

ディクテーション問題。スペルミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、見直しを強化しよう。

(1) 品詞にまで意識を向けられたかどうかのポイントの1つだった。interested を用いた誤答が見られたが、前置詞 into の直後に続けられるのは名詞。

(2) use of を youth や useful としたものが見られたが、それでは文意が通らない。空所前後とのつながりや文全体の意味を考えて解答しよう。

2 文法・語法

文法事項は、知覚動詞、関係詞、動名詞、助動詞、受動態、形式主語構文など広い範囲を出題した。加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

1 語でも間違えているものは配点分減点とした。

(1) 関係代名詞も語群に含まれていれば the last person … (…する最後の人) を思い出せたかもしれないが、目的格の関係代名詞は省略可能。整序英作文では「省略可能な関係代名詞」の存在を意識できるようにしたい。

(2) 〈know better than to + 動詞の原形〉に関係する誤りが多かった。不定詞の応用表現として押さ

えておこう。

(3) kind enough to という組み合わせは書けていても配置する位置の誤りが目立った。Would you tell me だけでも丁寧な依頼にはなるが、kind enough to …の使い方まで考えて文を組み立てた。

(4) worth の位置を誤っている答案が多かった。The painting is worth buying. など、例文ごと覚えるようにするとよい。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 空所前の「何があったの?」という質問に答える問題。イラスト(a), (b)から、①寝坊した、②自転車が無くなっていったという2つのポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが誤った情報を含むものや、空所前後と内容が矛盾する場合などは-3点、ポイントを押さえられていない場合は-6点とした。

(2) ①目覚まし機能付きのロボットであること、②そのロボットの具体的特徴を示していることの2点をポイントとし、どちらかが抜けている、または空所前後と内容が矛盾する場合は-5点、ポイント2つともに不備がある場合は-10点とした。英作文では、スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

- (1) ○自分でやってみると ……2点
○のこぎりを使うのでさえ ……2点
○見かけほど簡単でない ……3点
○ことがわかりました ……2点

「見かけほど」の時制のミスが目立った。時制は最後の見直しで必ず確認しよう。

- (2) ○家具作りの楽しさ ……3点
○を息子に教える ……2点
○「には時間がかかりそうです」 ……4点

「家具」で語彙力の差が出た。スペルミスが出や

すい語だが、それとともに不可算名詞としても注意が必要なのでこの機会に覚えよう。

4 長文読解

ポーランド人の女性がヒトラーによる母国への侵略について書いた手記の一部。比喩的な表現を含む英文において、話の展開や細かい描写が理解できているかを問うた。

(4) 今回の英文を読み進める上で、世界史の知識や一般教養が助けになる部分もあったが、下線部が表す内容としては、自分の知識をまとめるのではなく、本文の内容をまとめること。

5 長文読解

「バイオミクリー」の考え方とその活用について述べた英文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○Instead of trying to design new chemical cleaners that are less toxic ……5点

○a team of German scientists wondered ……3点

○how other organisms stay clean ……4点

構文はさほど複雑ではないが、design, cleaners, organisms など訳語の選択に迷う語が多いので、適切な訳語の選択ができていないものは減点対象とした。

(2) ① 含めるべきポイントは、「何と」=the structure of the lotus leaf, 「どの点で」=“mountainous” surface の2点。ポイントが1つ欠けていたら-6点とした。

② 該当箇所は rainwater washes the dirt away. rainwater, washes ~ away, the dirt にあたるものが1つ欠けるか間違えるごとに(-3)とした。

(3) ポイントとなるのは、植物と動物との間の関係で、それぞれの行動を通して物質を循環させる仕組みであること。光合成のみへの言及など、呼吸の説明がなく、双方向性を表す記述がないものは(-6)とした。